

老人問題に関する意識調査 — 介護福祉士専門課程の学生と看護専門学校生の比較 —

田 路 慧 ・ * 藤 澤 芳 美
** 藤 田 倫 子 ・ *** 山 本 京 子

Abstract

This Paper is the report of the consciousness investigation concerning the matter of the Aged ,namely the awareness of aging,the matter concerning the old aged,the conversation about aging, the education about the aged and the comparative study, from the students majoring in Science of Nursing and Care-Working

はじめに

高齢社会を向かえたわが国において、保健医療福祉の領域において看護職・介護職に対する専門職としての期待と責任は大きい。その中で、老人や障害者に対して専門職として関わる看護学生・介護学生の老人観は、看護・介護の過程を展開していく上で、重要な意味を持つ。基礎教育において、老人に関する教育をどのように構築していくかは、今後の課題であろう。このような観点からこのたび看護職・介護職をめざす学生がどのように老人問題に関して意識しているか比較・検討したので、ここに報告する。

I 調査対象及び方法

1. 調査対象

- A. 介護福祉士専門課程 学生 148名
- B. 看護専門学校 学生 244名

2. 調査方法

- 1) 質問紙による調査方法
- 2) 各設問に対する有効解答数のみ集計

3. 調査時期

1997年 10月

II 調査票

調査票は、後掲の調査結果の比較欄を参照されたい。

-
- * 藤 澤 芳 美：順正高等看護専門学校
 - ** 藤 田 倫 子：吉備国際大学保健科学部看護学科教授
 - *** 山 本 京 子：岡山県立大学大学院修士課程

Ⅲ 調査結果の比較

問1. あなたは最近問題になっている高齢化社会・老人問題について関心がありますか

介護福祉士専門課程学生		看護専門学校生	
ある	なし	ある	なし
138名(93.2%)	10名(6.8%)	209名(86.4%)	38名(13.6%)

問2. あなたは何歳をもって高齢者だと思えますか

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
「60歳～」	11名(7.5%)	40名(16.5%)
「65歳～」	119名(80.4%)	132名(54.3%)
「70歳～」	12名(8.1%)	47名(19.3%)
「75歳～」	3名(2.0%)	18名(7.4%)
「80歳～」	3名(2.0%)	6名(2.5%)

問3. あなたは高齢者の方と同居した体験がありますか

介護福祉士専門課程学生		看護専門学校生	
はい	いいえ	はい	いいえ
99名(66.9%)	49名(33.1%)	145名(59.4%)	99名(40.6%)

問4. 問3で「はい」と答えた方、それはあなたが何歳のときまでですか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
「今同居」	49名(50.0%)	55名(38.5%)
「18歳まで」	34名(34.7%)	62名(43.3%)
「15歳まで」	4名(4.1%)	9名(6.3%)
「12歳まで」	11名(11.2%)	17名(11.9%)

問5. あなたは自分の老後について、考えたことがありますか

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
「いつも考える」	4名(2.7%)	6名(2.5%)
「時々考える」	121名(81.8%)	189名(77.8%)
「全く考えない」	23名(15.5%)	48名(19.7%)

問6. あなたは自分の老後について考えるのはどんな時ですか

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
人生について考えた時	36名(29.3%)	69名(36.1%)
肉親の姿を見て	15名(12.2%)	38名(19.9%)
実習に行ってみて	49名(39.3%)	29名(15.2%)
講義を聞いて	10名(8.1%)	10名(5.2%)
街角でお年寄りを見て	8名(6.5%)	20名(10.5%)
ボランティア活動に参加して	1名(0.8%)	11名(5.7%)
マスコミによって	2名(1.6%)	7名(3.7%)
その他	2名(1.6%)	7名(3.7%)

問7. 問6で『人生について考えた時』と『肉親の姿を見て』とお答えになった方、その内容とはどんな事ですか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
余暇・自由	35名(41.7%)	61名(42.1%)
孤独・喪失	21名(25.0%)	27名(18.6%)
年金	2名(2.4%)	10名(6.9%)
痴呆・寝たきり	26名(30.9%)	47名(32.4%)

問8. 老後の問題について家族で話し合ったことがありますか

介護福祉士専門課程学生		看護専門学校生	
ある	なし	ある	なし
95名(64.2%)	53名(35.8%)	95名(38.9%)	149名(61.1%)

問9. 問8で『ある』とお答えになった方、それは主としてどんな事ですか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
健康問題	12名(12.6%)	23名(24.2%)
介護問題	79名(83.2%)	61名(64.2%)
経済問題	2名(2.1%)	6名(6.3%)
心の問題	2名(2.1%)	5名(5.3%)

問10. あなたの両親が老いて「介護」が必要になったとき、だれが面倒をみたら良いと思いますか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
自分または自分の配偶者	102名(70.8%)	154名(65.5%)
兄弟またはその配偶者	12名(8.3%)	47名(20.0%)
父または母	3名(2.1%)	1名(0.4%)
介護福祉士・ケア-など介護職	11名(7.7%)	6名(2.6%)
保健婦・看護婦などの看護職	1名(0.7%)	1名(0.4%)
わからない	15名(10.4%)	26名(11.1%)

問11. あなたの両親が老いて「介護」が必要になったとき、どこで面倒をみたら良いと思いますか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
家庭	130名(88.4%)	202名(83.1%)
特別養護老人ホーム	3名(2.0%)	4名(1.7%)
軽費・養護老人ホーム	2名(1.4%)	4名(1.7%)
病院	1名(0.7%)	6名(1.1%)
老人マンション	0名(0.0%)	4名(1.7%)
わからない	11名(7.5%)	26名(10.7%)

問12. 自分が老いて「介護」が必要になったとき、誰にみてもらいたいと思いますか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
配偶者	45名(30.6%)	57名(24.3%)
息子	6名(4.1%)	8名(3.4%)
娘	39名(26.5%)	63名(26.8%)
嫁	1名(0.7%)	0名(0.0%)
孫	1名(0.7%)	2名(0.9%)
介護職	24名(16.3%)	25名(10.6%)
看護婦	0名(0.0%)	9名(3.8%)
わからない	31名(21.1%)	71名(30.2%)

問13. 自分が老いて「介護」が必要になったとき、どこで世話をしてもらいたいと思いますか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
家庭	113名(76.9%)	154名(63.1%)
特別養護老人ホーム	2名(1.4%)	16名(6.6%)
軽費・養護老人ホーム	1名(0.7%)	15名(6.2%)
病院	0名(0.0%)	3名(1.2%)
老人マンション	13名(8.8%)	13名(5.3%)
わからない	18名(12.2%)	43名(17.6%)

問14. あなたは「高齢者の結婚」についてどう思いますか。

イ. 一般的にみて

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
賛成	120名(81.1%)	174名(71.6%)
反対	0名(0.0%)	4名(1.6%)
どちらともいえない	28名(18.9%)	65名(26.8%)

ロ. 親の場合

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
賛成	80名(54.0%)	132名(55.0%)
反対	14名(9.5%)	21名(8.8%)
どちらともいえない	54名(36.5%)	87名(36.2%)

ハ. 自分の場合

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
賛成	83名(56.1%)	119名(49.2%)
反対	17名(11.5%)	17名(7.0%)
どちらともいえない	48名(32.4%)	106名(43.8%)

問15. 老人について、あなたはどのようなイメージをもっていますか。どちらか近いものを選んで下さい。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
イ 親しみやすい	134名(90.5%)	221名(87.6%)
親しみにくい	14名(9.5%)	30名(12.4%)
ロ 暗い	65名(43.9%)	95名(40.1%)
明るい	83名(56.1%)	142名(59.9%)
ハ 頑固	123名(83.1%)	201名(84.1%)
柔軟な	25名(16.9%)	38名(15.9%)
ニ 鈍感な	95名(64.2%)	155名(64.3%)
敏感な	53名(35.9%)	86名(35.7%)
ホ 清潔な	73名(50.0%)	104名(44.4%)
不潔な	73名(50.0%)	130名(55.6%)
ヘ 複雑な	129名(87.2%)	189名(78.4%)
単純な	19名(12.8%)	52名(21.6%)
ト 冷たい	4名(2.7%)	8名(3.3%)
暖かい	144名(97.3%)	232名(96.7%)
チ 楽しい	49名(33.1%)	147名(61.5%)
退屈な	99名(66.9%)	92名(38.5%)
リ 小さい	100名(68.0%)	201名(83.8%)
大きい	47名(32.0%)	39名(16.2%)
ヌ 貧しい	83名(56.5%)	86名(36.6%)
豊かな	64名(43.5%)	149名(63.4%)

問16. あなたは老人に対して敬愛の念をもっていますか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
おおいにもっている	40名(27.0%)	53名(21.8%)
もっている	90名(60.8%)	146名(60.1%)
少しもっている	16名(10.8%)	43名(17.7%)
もっていない	2名(1.4%)	1名(0.4%)

問17. あなたはボランティア活動をして、高齢者のために役立ちたいと思いますか

介護福祉士専門課程学生		看護専門学校生	
はい	いいえ	はい	いいえ
132名(89.2%)	16名(10.8%)	206名(87.0%)	33名(13.0%)

問18. あなたは今話題となっている「介護保険」について知っていますか

介護福祉士専門課程学生		看護専門学校生	
はい	いいえ	はい	いいえ
131名(88.5%)	17名(11.5%)	86名(35.4%)	157名(64.4%)

問19. あなたは介護の費用をどのように負担したら良いと思いますか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
自分で賄う	9名(6.1%)	10名(4.2%)
自分たちで積み立てた公的保険で賄う	53名(36.1%)	90名(37.3%)
税金で賄う	59名(40.1%)	91名(37.8%)
わからない	26名(17.7%)	50名(20.7%)

問20. あなたは学校において「高齢者あるいは高齢化問題」についての教育は必要だと思いますか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
思う	137名(92.6%)	218名(90.0%)
思わない	3名(2.0%)	6名(2.5%)
どちらともいえない	8名(5.4%)	18名(7.5%)

問21. あなたは学校において「高齢者あるいは高齢化問題」についての教育を受けたいと思いますか。

介護福祉士専門課程学生		看護専門学校生	
はい	いいえ	はい	いいえ
142名(95.9%)	6名(4.1%)	209名(86.0%)	34名(14.0%)

問22. 問21で「はい」とお答えの方、特に詳しく学びたいのはいつですか。

	介護福祉士専門課程学生	看護専門学校生
小学生	1名(0.7%)	1名(0.5%)
中学生	1名(0.7%)	16名(7.8%)
高校生	4名(2.8%)	178名(38.0%)
大学生・専門学校生	137名(95.8%)	110名(53.7%)

IV. 分析と考察

1. 高齢社会・老人問題に関する関心について

介護福祉士専門課程の学生93.2%、看護専門学校の学生86.4%と、共に大半の学生が関心をもっていた。しかし、なぜ看護専門学校の学生に「関心なし」が多いのであろうか。入院期間短縮、継続看護が言われ、そのなかでの看護職の責任を問われる今日この値はどうしたことであらうか。

「あなたは何歳をもって高齢者だと思いますか」という質問において、介護福祉士専門課程学生では92.5%、看護専門学校生では83.5%と大多数の学生が、65歳以上を高齢者だと感じている。その中で、看護専門学校生の学生のなかで、16.5%の学生が60歳以上を高齢者だと主張しているのは、どうしたことであらうか。

現在老人と「同居している」学生は、介護福祉士専門課程の学生が、50.0%に対して、看護専門学校の学生38.5%であった。また、過去に老人と同居していた学生は、「介護福祉士専門課程」の学生の場合66.9%、「看護専門学校生」の場合59.4%と介護の学生がやや多い。老人問題の関心度が介護福祉士専門課程の学生がやや多かったこととも関係があるのだろうか。同居経験のない学生が、介護福祉士専門課程の学生33.1%、看護専門学校の学生の場合40.6%と3割以上あったのは、現代の核家族化傾向を表している。教育において考慮すべきであらう。

自分の老後について「考えたことがある」学生は、介護福祉士専門課程の学生84.5%、看護専門学校の学生80.3%と、共にかなりの学生が自分の老後について考えた経験をもっている。「全くない」学生は、19.7%であった。

考えた時は、「講義を聞いて」が介護福祉士専門課程の学生8.1%、看護専門学校の学生の場合5.2%であるに対して、「人生について考えたとき」、「肉親の姿を見て」、「実習に行ってみて」と自分自身の人生や老人の姿を見たときが、自分の老後について考える契機になっている。しかし、「講義を聞いて」が介護福祉士専門課程の学生の場合も「看護専門学校生」の場合も共に少ないのを見ると、実体験はととても重要な契機になるといえる。一般論としての話はあまり効果がないことがわかる。老人問題の教育についての検討が必要であらう。

順位として、「介護福祉士専門課程」の学生の場合、「実習にいつて」が39.9%と最も多くな

っている。それに対して、「看護専門学校の学生」の場合は、「人生について考えた時」が、36.1%と最も多くなっている。これは、高齢化社会の影響はもちろん、各校の学習内容の違いが、学生の経験内容に影響しているのではないだろうか。

老後について考えた内容については、「余暇・自由」と答えた学生が「介護福祉士専門課程の学生」41.7%、「看護専門学校の学生」42.1%と共に4割以上あり、最も多くなっている。次に、「痴呆・寝たきり」が3割強、「孤独・喪失」と答えた学生が2割前後と肯定的な面と否定的な面が同じような割合でみられる。「年金」など経済的な面よりも「余暇・自由」など精神的な面に強い関心をもっていることがわかった。これだけ年金問題がマスコミで叫ばれているにも関わらず関心が少ないのは、実感が伴わないためであろうか。

一方、老後の問題について家族間で「あまり話し合ったことがない」が、「介護福祉士専門課程の学生」64.2%もあるのに対して、「看護専門学校の学生」の場合38.9%となっている。「ある」と答えた方の理由としても、「介護福祉士専門課程の学生」の場合、「介護問題」83.2%、「健康問題」12.6%と介護問題が圧倒的に多くなっている。それに対して、「看護専門学校の学生」の場合は、「介護問題」64.2%、「健康問題」24.2%と健康問題の割合が増えている。これは、体験した時期の違いの表れであろうか。そしてまた、「心の問題」については、「介護の学生」の場合も「看護の学生」の場合も、数名と少なく、「介護」と「健康」に学生の関心が強いことがわかる。

2. 「介護問題」について

両親が老いて介護を要するようになったとき、「自分または自分の配偶者が行う」と答えた学生が、「介護福祉士専門課程の学生」70.8%、「看護専門学校の学生」の場合65.5%となっている。「兄弟またはその配偶者」と「父または母」をあわせると、それぞれ81.2%、85.9%と8割以上の学生が答えており、共に肉親による介護を考えている。「専門職に任せる」と答えた学生は、相方ともわずかであった。学生たちに、心理的に、両親の介護は肉親がするという伝統意識が残っていることと、自分の両親を家族以外の人つまり他人へ委ねることに対して抵抗が大きいためではなかろうか。

両親の介護の場については、「家庭」が「介護福祉士専門課程の学生」88.4%、「看護専門学校の学生」の場合83.1%と圧倒的に多くなっている。逆に、看護職・介護職をめざしている学生たちでありながら、「福祉施設」はわずかである。これは、「老いた両親は家庭で世話をしたい」という学生自身の願望の表れであろうか。

次に、「自分の介護は誰にみてもらいたいか」について、「介護福祉士専門課程の学生」の場合「配偶者」が30.6%と最も多く、次に「娘」が26.5%となっている。配偶者・娘・息子・孫を合わせると、61.9%であるに対して、「嫁」は0.7%、「介護職と看護職」を合わせて16.3%と肉親の場合より少ない。「看護専門学校生」の場合も同様の傾向がある。これは、自分が老いた時の世話は、血縁の者にしてほしいという願望の表れであろうか。中でも「娘」への期待が大きくなっている。そしてまた専門職の中でも看護職より介護職への期待が大きい。これは、介護の内容を考えると、親とし

て息子より娘への期待が大きいことと、より専門としている職種への期待が自分の親の場合より多くなっていることと共に、核家族化・少子化等で子どもへの期待があまりできないことを予感しているのかもしれない。そして、この傾向は看護職としては、社会的にも保健医療福祉の連携、看護の質が問われている現状があるだけに、注目に値する。

「自分が介護されたい場」は、施設に比べて、「家庭」が「介護福祉士専門課程の学生」、「看護専門学校」の場合も共に圧倒的に多い。施設に対する抵抗感が強い。しかし、両親の介護のときより増えていることをみれば、自分の介護は家族に頼れないことを無意識に自覚しているためであろうか。

3. 老人の結婚について

一般的にも、親、自分の場合いづれの場合でも、「介護福祉士専門課程の学生」、「看護専門学校」の学生ともに「賛成」と答えた学生が多い。老人の結婚に対する抵抗感が少なくなってきたためではないか。

4. 老人に対する感性的反応

「親しみやすい」、「明るい」、「あたたかい」という肯定的・好意的なイメージが、「暗い」、「冷たい」といった否定的なイメージより多かった。一方「頑固な」、「鈍感な」、「複雑な」といった否定的イメージを持っている学生もかなりいた。学生たちはかなりの確かなイメージを持っていたことがわかる。

「老人に対する敬愛の念」については、ほとんどの学生がもっている。

「老人のために役立ちたいと思っている学生」も、約9割ある。老人介護を支えていく専門職をめざす学生としての立場が反映しているのであろうか。しかし、看護学生のうち「役立ちたくない」とはっきり答えている学生が、1割強あることは、今後の看護教育を考える上で考慮しなければならない問題であろう。

5. 介護保険について

「介護保険について知らない」学生が以外と多い。特に「介護福祉士専門課程の学生」11.5%に対して、「看護専門学校」の学生は64.6%もあることは問題である。これは、現代学生の社会問題に関する関心の低さと教育内容の違いの表れであろうか。

介護費用の問題については、「税金で賄う」がもっとも多く、介護保険に無知なことと合わせて考えると、老後の経済問題に関する関心の低さがうかがわれ今後の教育の必要性が感じられる。

6. 高齢者あるいは老人問題に関する教育の必要性

約9割とほとんどの学生が、老人問題に関する学校における教育の必要性を感じている。そしてその時期は、高校生以後を望む者が多く、特に看護専門学生の方がその時期はばらつきがあり、早期の教育を望んでいる。今後の教育の参考にすべきであろう。

おわりに

以上の結果より今後の介護および看護専門職の教育において検討すべき次のような事柄があきらかとなった。

ほとんどの学生は、老人問題に関心を持っていたが同居経験のない学生が多いことには教育上考慮すべきであろう。

自分の老後について、8割以上の学生が考えた経験をもっており、自分自身の人生について考えたときや老人の姿を見たり、実習を通して関わってみた時が、自分の老後について考える契機となっている。しかし、その時期は、介護学生は「実習にいて」がもっとも多く、看護専門学校生では「人生について考えたとき」がもっとも多くなっており、両者に差がみられている。これは、教育内容の違いによるものではないだろうか。

老後について考えた内容は、肯定的な面と否定的な面がみられる。「余暇・自由」等の精神的な面が、「年金」などの経済的面より強い関心を示している。しかし、老後の問題について家族間で話し合うという経験は、介護福祉士専門学生と看護専門学生との間に差がみられる。

介護については、肉親が家庭で介護するという伝統意識が残っている。心理的に、家族以外の人つまり、他人すなわち専門職に委ねることに対して抵抗が大きいようである。

老人に対する感性的反応としても、「親しみやすい」、「明るい」、「あたたかい」などと肯定的・好意的なイメージが多く、学生たちはかなり適切なイメージを持っていることがわかる。

介護保険についても、公的資金で賄うと答えている学生が多いにも関わらず、その内容を知らない学生が特に看護専門学校学生において多かった。今後学生自身の問題として、老人問題をとらえさせていくこと、特に老後の経済問題に関する教育が重要となるであろう。

超高齢化社会を向かえている今日、入院期間も短縮され、在宅療養者の割合がますます増加していく。そのような背景において、看護職・介護職の役割はいつそう期待されよう。学校において大半の学生は、老人問題に関する教育の必要性を感じている。核家族化・少子化傾向が進んでいる。家族に対するありようも、「家を守る」という考え方から、家族内の個々人の考え方や生き方を重要視した形に変化しているようである。このような現状をふまえて、教育の場においても講義・実習等あらゆる学習の機会をとらえ、学生自身が自分の問題として、老人問題を正しく理解し、対応できるように教育内容を見直し、充実をはかっていくことが今後必要であろう。

本論の調査票は、岡山県立大学生命倫理研究会が行った生命倫理・老人に関する意識調査の調査票を使わせていただいた。岡山県立大学生命倫理研究会および調査にご協力いただいた学生の方々に心から謝意を表したい。

平成10年10月30日受付
平成10年12月25日受理